



完成イメージ



下流域の洪水被害を軽減する洪水調節専用ダム

平成16年7月福井豪雨により、足羽川下流域では広い範囲で浸水し、甚大な被害が発生しました。足羽川ダム建設事業は、福井豪雨のような水害を繰り返さないために、上流で洪水を調節し、下流地域の洪水被害を軽減することを目的とした洪水調節専用ダムです。



大池見山東堰堤



六甲山系周辺に暮らす230万人の人々を守る

六甲山系直轄砂防事業は、六甲山系の土砂災害から周辺に暮らす人々の生命・財産および重要交通網等の社会経済基盤を守ることを目的としています。砂防施設の整備や老朽化した基幹堰堤の補強・機能向上対策、斜面对策・樹林整備等を実施しています。

洪水から人々を守る  
ダム建設に挑む

足羽川、日野川、九頭竜川の洪水から人々の暮らしを守るため、足羽川ダムの建設を進めています。そのなかでダムの設計や工事発注を中心に担当しています。ダム建設事業は長い年月を経てようやく建設に着手できるもの。そこに至るまで尽力された多くの方々の努力や、住居移転を余儀なくされた周辺地域の方々の協力なくしては実現できません。そのことを忘れず、使命感を持って臨んでいます。ビッグプロジェクトに携わるのは責任重大ですが、その分やりがいも大きいです。国土交通省の仕事は成果が形として将来も長く残っていくのが魅力です。足羽川ダムが完成したら家族と訪れ、思いっきり自慢したいと思います。

平成23年度入省  
堀川 裕太  
足羽川ダム工事事務所 工事課 工事係長  
土木

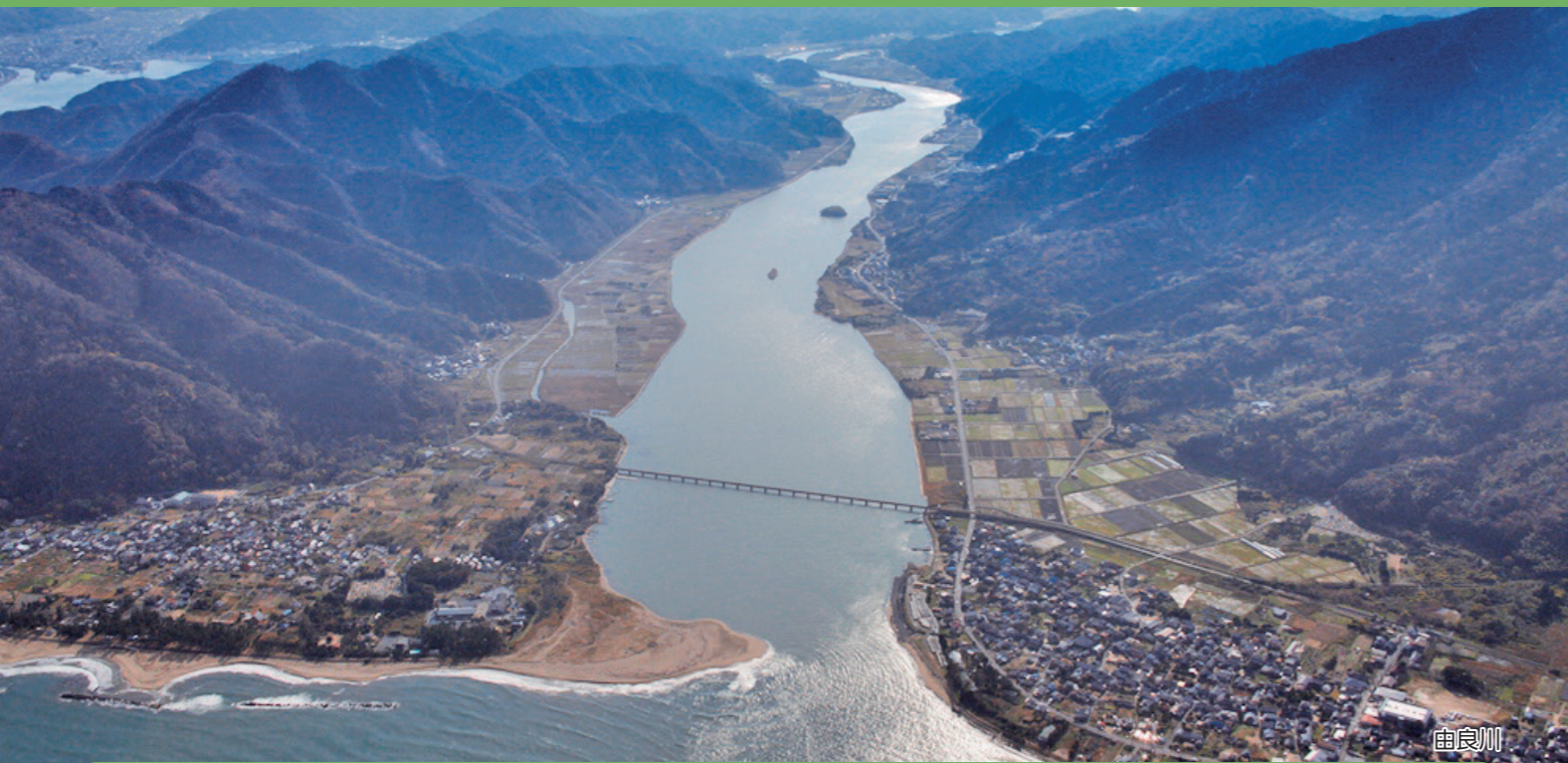


土石流やがけ崩れをくい止め、  
人的被害をなくす

六甲山系は山と人の距離が近く、ひとたび土砂災害が起きると人々の生命や生活、重要な交通網が脅かされます。その危険から守るための砂防事業を行っており、砂防ダムや斜面对策工事の設計・積算に携わっています。工事は現場条件などにより設計どおりにいかないことが多いのですが、現場と相談しながら課題を解決し、完成したときはひととき大きな感動がこみ上げます。近年は砂防ダムの着実な整備により人的被害の数は確実に減少し、一つひとつ積み上げてきた成果が現れてきています。数年前の台風で土砂が市街地へと流れ、その箇所の工事にようやくたどりついたときのことは印象に残っています。着工前の地元説明会で住民のみなさんから激励の意味を込めた拍手をもらい感無量でした。

平成11年度入省  
川原崎 智也  
六甲砂防事務所 工事課 専門官  
土木





由良川

災害発生時に万全な体制をとれる河川管理を

由良川の堤防除草、護岸や樋門等の修繕や河川管理施設の点検、河川巡視により河川敷地の管理等を行い、災害発生時に万全な体制をとれるよう河川管理を行っています。また、河川法にもとづき、河川使用などの占用に関する許認可業務を行っています。



高水敷(河川敷)を適正に管理し、洪水リスクを軽減

川の水が常に流れている場所から一段高い高水敷(河川敷)には、橋梁などの工作物が設置され、洪水時に流出して堤防に損傷を与えるリスクがあります。そこで高水敷を河川区域に指定して適正に管理するとともに、河川法に基づきリスクをもたらす工作物がどうかの許認可業務を行っています。河川区域に指定すると私有地でも規制がかかり、土地所有者から厳しい意見をいただきます。粘り強く説明し、理解していただくことが大切です。工作物の設置を許可できない場合も杓子定規に対応するのではなく、どうすれば許可できるかを考え、アドバイスするように心がけています。すべては地域の安心・安全のため。やりがいと誇りを持って取り組んでいます。

平成11年度入省  
森松 貴志  
福知山河川国道事務所  
河川管理課 専門官  
行政



やらずに後悔するより  
やってから後悔しよう!



岩出狭窄部対策

紀北地方の治水安全度を向上する

紀の川流域は台風の影響を受けやすく、雨が多く洪水が発生しやすい地域です。紀の川中上流部には、無堤部や狭窄部が点在しており、流下能力が不足しています。無堤部対策や狭窄部対策を行うことにより流域の洪水に対する安全度を高め、安全で安心して暮らせる社会の形成を図ります。



堆積した土砂を撤去し、川の流水量を増やす

紀の川では川幅が狭くなっている3つの場所で大きな浸水被害が発生しています。そのうち最も下流にある岩出狭窄部に堆積した土砂を掘削し、バイパスとなる拡幅水路を設け、令和2年度末までに約1mの水位低下を目指しています。河川の中の土砂の堆積状態は刻々と変化し、大雨や台風による出水で工事発注計画に影響が出ることも多々あります。与えられた予算や施工条件のなかでいかに効率よく事業を完成させるかを第一に考え、業者の方々と意見を出し合って一丸となって取り組んでいます。災害対策や減災対策に携わりたかった私にとってやりがいのある仕事で、地域や企業、仕事仲間などいろいろな人とのつながりを大切に自己成長できるのも魅力です。

平成15年度入省  
米本 教子  
和歌山河川国道事務所  
工務第一課 工務係長  
土木



やり甲斐あります。

